

視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

《取組内容》

☆年度はじめの全職員による方向性の確認

年度はじめに、検証改善サイクルについて指導主事から事業について説明していただき、全職員で方向性を共有してスタートした。

☆学年・教科ごとの検証改善サイクル

本校では、学校全体で行う「確かな学力育成プラン」をもとにして、各学年、各教科でも「確かな学力育成プラン」を作成した。

☆学期ごとの検証改善サイクル

さらに、学期ごとに検証し、次学期の方針を確認して年間を通してCAPDサイクルを回し、取り組みを具体化した。

《提言》

学年・教科ごとの
検証改善サイクル
作成と振り返り

視点2：学年や教科を超えた組織的な授業改善の推進

《取組内容》

☆学校規模を活かした教科部会の活性化

本校は令和7年度では、管理職をふくめるとすべての教科が2人以上在籍していたため、教科部会における話し合いを深めることができた。

☆校内研究会の持ち方の工夫

校内研究会では、教科ごとに「自分たちの教科で活かそうな点」等を話し合い、それをもとに異なる教科間で意見交流をすることで、自分の教科だけでは見えなかった視点や異なる考え方を自分の教科にフィードバックできるようにして、授業改善を推進した。

《提言》

教科部会の活性化
と校内研究会の
持ち方の工夫

視点3：調査結果の積極的活用

《取組内容》

☆ドットプロット分析を活用した授業改善・個別支援

全国学調や県学調の結果を利用して、正答数の分布別に4グループに分けたドットプロット分析を利用して、授業での意図的な指名を効果的に行うことができた。

☆MEXCBTを活用した既習内容の定着の把握と個別支援

数学科では、既習内容の復習や定着を図るために「MEXCBT」を活用し、「多様な問題への挑戦」「自動採点による、時間短縮」「一問一答式で、気軽に既習内容の確認」などの学習の補充、個別支援を行った。

《提言》

ドットプロット分析と
MEXCBTの活用による個別支援